

【めむろ未来ミーティング日程 10】

令和4年1月17日（火）

13:30～14:30

雄馬別地域福祉館

■参加者 2人

■芽室町 副町長、環境土木課長、農林課長、政策推進課長補佐、商工労政課長補佐

■記録 今森

■対応・検討が必要な事項

①コロナ禍での救命救急の講習の件（総務課、芽室消防署）

1 開会

2 副町長挨拶

3 町からの説明事項

・公共施設等再配置構想について

・まちなか再生の取り組みについて

・3回目コロナワクチン予防接種について

4 意見交換

【意見】

12月の強風で倒れた防風林がいま撤去中だが、撤去された跡を見ると木の根が残っている。あの根はどうにからないか。

【農林課長】

町有林の倒木撤去に関しては年末に業者との契約が完了し、順次作業をしている。

まずは折れた木を処理し、抜根してその後植栽という流れになると思われる。今後の植栽にも影響することから、おそらく根をそのまま残しておくことはない。

【意見】

今のところ、折れた木を順次撤去しているのは見ているが、今後の作業の流れがどうなるのか気になっていた。雪が解けてから後の作業をするのか。

【農林課長】

確認し、個別連絡する。

【意見】

道路敷地に生えている支障木について。町に連絡すると枝払いで対応してもらえるが、根元から切ってもらいたい。前に大きくなってしまった木を処理する際に作業員が怪我をしてしまったという話を聞いた。小さいうちに処理してもらいたい。

保安林のすぐ横の雑木も間伐の際に切ってもらえたら予算的にも良いと思うが、管轄が違うので切って貰えない。

【副町長】

どうしても縦割りで道路予算、森林予算が違うなどの事情はあるが、町として連携を取れていれば良いだけの話だとは思う。

【環境土木課長】

道路パトロールで交通の支障になるような支障木の枝払いはしており、大きくなり過ぎて倒木のおそれがあるものは、抜根まではいかないが切っている。全町的にけっこうな本数があるため、地区の方から個別に場所を教えていただければ対応はできると思うので、お知らせいただきたい。

【意見】

そろそろ地籍調査をやってもらえないかと思っている。営農用水や上水道の工事をした時にも地籍の杭が無くなってしまった。何年おきにやるものなのかはよく分からないが、一度やってもらって区切りをつけてもらえれば。

また、砂利道のグレーダーや除雪作業はGPSを付けて真っすぐにしてもらいたい。どうしても癖が付いて道路が曲がってってしまう。新しい機械を使って、まっ

すぐに道路修正してもらいたい。

【環境土木課長】

道路維持管理について、AIで駄目な箇所を見たりするシステムがあるのは把握している。現在、町では研究中の段階。

除雪については、今年、除雪車15台に試行的にGPSを積んで運行する予定。これは不具合を見つけるというのではなく、除雪車が今どこを走っているのか一元管理するもの。やり残しを無くしたり、応援車両への指示に有効であると考えている。国や道の先進事例を含め、今やっているこのような取り組みの費用対効果がどうなのか検証していきたい。

【意見】

ぜひやってもらいたい。春の除雪の際などは営農用水の栓にぶつかったり、引っかかるのではないかと危惧している。そういう障害物も分かるようにしておけば事故もなくなると思う。

【環境土木課長】

例年、雪が降る前に、担当する路線の障害物を押さえてポールを立てている。それでも稀に事故が起きてしまう。システムを導入できれば、未然に防げると考えている。

【副町長】

町道の境界確認については、改めて整理する必要があると思う。舗装まですると、そうそうぶれることはないが、砂利道が農道なのか町道なのか、その境目がどうなのかというもある。

今、ダムからの水でこの辺りの工事をしているが、合わせて整理できれば一番良いと思う。

【意見】

農作業もGPSでやっているのだから、きちんとした基準があると助かる。役場の地籍図から角度を取っているのだからそこは正確だと思うが、境界はどうかという状態。

【副町長】

耕作のために境界情報が必要で、この路線の具体的な場所が必要だというものがあれば、町道と民地の境界は確認して整理はできると思う。

民地と民地の境界については、町として介入していくことはできない状態。地籍調査は昭和50、60年代に全部入っており、そのときに杭がどう管理されているかによる。なかなか難しいところもあるので、慎重に対応しなければならない。

【意見】

土地改良事業の均平の精度が低い。±30cmが許容されると最大差が60cmにもなってしまう。水が溜まると暗渠を入れても引かない。

事業の制度がそうになっているから高精度でできないのか、機械にお金がかかるからということなのか。

お金はちょっとかかるのかもしれないが、後々の事を考えると水が溜まって暗渠を追加するよりは良いと思う。

【農林課長】

土地改良は北海道が事業主体となっている。今のお話の均平±30cmというのは私も存じていなかった。恐らくは業者がGPSを積んだ機械を持っている、いいだけではなく、事業上の要件。

北海道の主体事業ということではあるが、基準自体が今の時代に合っているかどうか、というのはある。そこは現場の声としてお伝えしたい。

【意見】

育成牧場の件で、現状として4割の入牧に留まっているという話を聞いた。金額が高く、当初の見込みよりも少ないという話を聞いている。

管内でも立派な施設だと思うので、現状の入牧数では勿体ないと思う。農協の考えもあると思うが、役場もその辺りを把握し運用していくべきではないか。

【農林課長】

育成牧場は町と農協が共同運営している形になっており、4割の入牧であることも存じている。当初から、

1年目から概ね3年間ぐらいは、5割ぐらいの入牧を見込んでいる。そうなってくると、金額の問題も100%入ったときに収支が取れる額で設定している。当初はやはり赤字にならざるを得ないというのは、話し合いの中で我々もそれは承知している。近況でいうと、3月までには5割を超える見通し。様子見をされている方も多いので、実際に入っ
て良いという声が広がれば利用は今後増えていくと思う。

【意見】

新規募集は今のところ考えていないのか。

【農林課長】

新規を受け付けないという考え方はない。酪農の現場サイドの話は農協が我々よりも詳しいことから、農協主体で動いていただいている。

【副町長】

生き物を扱うということで、最初は相当慎重になっていると思う。100%利用していただくのが一番良いと思う。

【意見】

手間のかかる所をお願いしたいのか、安心できる所をお願いしたいのかで多少変わってくる。

【副町長】

少なくとも預かった牛についてはきちんと育てるというのがメインになってくる。料金については私の立場から何とも言えない。

【意見】

運営上のコストも上がってきており、なかなか新しく育成舎を建てるのは難しいと聞く。労働力も家族労働だけでやっている所は大変なようだ。そこを考えると育成牧場というのは一つの解決策ではあると思う。

【副町長】

改めてニーズ調査も含めてやってみるのも一つの手

かと思う。農協とも情報交換しながら進めていきたい。

【意見】

新嵐山のお客さんの量は変わってきているのか。

【副町長】

総人数でいうと、どの業界もそうだが新型コロナウイルスの関係で減っている。キャンプ場も含めて今スキー場も本格化してきており、そういった部分は微増してきている。客層も変わってきており、若い方が多くなってきている。

【意見】

他会場でも意見が出たと思うが、地元の人が使いづらくなっているという声が出ている。

今は山の麓の方を改良して集客しているようだが、個人的には新嵐山の一番の売りは展望台からの眺めだと思う。あそこをもっとあのアピールしてもいいのではないか。展望台までの道路を整備して走りやすくするだけでも、だいぶ変わってくる。景色を見やすくするために木を伐採して360度のパノラマにするのも良いのでは。

【副町長】

改革については一部誤解があり、新聞などで何十億かけるというような情報が出てしまった。あれは仮に宿舍を建て替えたら、リフトを架け替えたらという参考の数値。必ずあれをしなくてはならないというものではない。現実問題、新嵐山に泊まるお客様のこと考えると本当に新しい建物が必要なのか、いろいろ議論しなくてはいけない。

今の改革構想に展望台のリニューアルは入っており、もう少し景色をゆったり見られるような場の整備を考えている。

スキー場をこれからもやり続けるとすれば、老朽化に伴うリフトのかけ替えは絶対に出てくる話。今ある2本そのまま架け替えるのか、効率的に1本化するのが議論が必要。

【意見】

夏場のリフト運行は考えていないのか。

【副町長】

展望台が整備され、お客様が常時来ようなら検討したい。平日は難しくとも、土日限定でリフトを回すなどの考えは持っている。

また、夜に展望台から見る星空も魅力の一つなので、そういったものを使いながらお客さんに来てもらうようにすると良いかなと思っている。

【意見】

登山道ももう少し綺麗になればと思う。

【副町長】

昔に整備された階段などは腐食してしまっている。それも再整備すれば、歩いて登る方も増えてくるのではと思っている。

新嵐山についてはご批判をいただくこともあるが、以前もままで良かったのかというと、やはりそうではないと思う。チャレンジの仕方も、これをやれば100%というのはないので、軌道修正しながらやっていきたい。

地元の方、地域の方に愛される場でないと意味がないと思っているので、真摯に受け止め対応していきたい。

新嵐山は高級志向ではなく、ファミリーや初心者が体験するような場所としてあるのが一番いいと思う。間口を広くお客さんも迎え入れるような体制が大事だと考えている。

【意見】

熊や鹿の鳥獣対策として、フェンス設置の考えはないか。

【農林課長】

過去からの経過の中で、検討している事項ではある。山側と町側が分かれていれば山沿いにずっとフェンスを張っていけば良いが、芽室の場合は西側の山だけ抑えればいいのかという問題も当然出てくるため、

非常に難しい問題。

平成26、7年辺りに新嵐山から出る熊を東に行かないように、鹿が道路を渡らないように場所を決めてフェンスを張ったことがある。実証して結果を見てうまくいくのであれば範囲を拡げる話もあったが、28年の台風災害でフェンスが流されてしまい、効果を検証するまで至らなかった。

フェンス自体を全く考えてないわけではなく、効果的ということであれば検討の余地はある。担当とも話し合いたい。

【副町長】

当時は新嵐山から美生の側に渡る獣道がある程度掘めていたが、台風災害で川も道も形が変わってしまい、生き物の動きも変わってしまった。

【農林課長】

フェンスを張るとして検証しなくてはならないのは、そこを塞ぐことで違う場所に出没を誘導してしまわないかということ。その辺りも慎重に考えないといけない。鹿が全部流れて他の地域に出没した、などとなると本末転倒になってしまう。

国の補助事業もあるので、実施するのであればそういった財源を活用していきたい。実際の被害地域の方と話をしながら、場合によってはご協力もいただきたい。

【意見】

日野自動車のテストコースにはフェンスがずっと張ってあるが、コースに熊が出没したという話はあるか。

【農林課長】

コースに出たという話は聞かないが、猟友会のハンターからはフェンスの下を掘って出入りしているという話は聞いた。

【意見】

コロナ禍での危機対策について、消防のプロによる救命救急の指導法なども取り入れ、町民に周知してはどうか。以前は心臓マッサージと人工呼吸がセットだった

が、コロナにより大きく変化していると聞く。①

【副町長】

新型コロナウイルスの影響で、今までの概念が通用しなくなっている。それを知っているかどうかで初期活動が変わってくる。

これは消防の管轄だからということではなく、人命に関わるものは役場も消防も関係ない。役場でそういった講習会をやるということになれば、必ず正しい情報量を確認し盛り込んでいく。



14:30 終了